

令和6年度事業報告

令和6年度（令和6年7月1日～令和7年6月30日）の「一般社団法人自然環境共生技術協会」の運営及び事業活動については、令和6年度事業計画に基づき、会員各位のご協力により、活発な事業展開を図ることができた。

企画運営委員会、総務委員会、事業委員会、広報委員会及び研究委員会においては、それぞれの所掌事項に関する運営方針に基づき、協会活動の円滑な推進、事業計画の適正な執行、講演会・セミナー・講習会の開催等による事業活動の充実、広報活動の充実、自然環境共生技術に関する研究活動の推進など、積極的な取組みを行った。

特に当年度は、NECTA20周年記念シンポジウムを5月に開催し、実行委員会を設置しつつ周到な準備のもと、すべて成功裏に終了した。

また、それに先立ち、11月には事務所の移転を余儀なくされ、各方面のご協力を得て無事終了した。

令和6年度における会員の異動、総会、理事会、各委員会の開催状況及び事業活動の概要は、以下のとおりである。

1. 会員の異動

令和6年度の会員数の推移は、次のとおりである。

会員種別		令和6年 7月1日現在 会員数	入会者数	退会者数	令和7年 6月30日現在 会員数	備考(令和7年 7月1日現在)
正会員		31	2	0	33	35
賛助 会員	法人	0	0	0	0	0
	個人	5	2	0	7	8
特別会員		3	0	2	1	1
計		39	4	2	41	44

2. 総会、理事会、各委員会などの開催

1) 総会、理事会、各委員会などの開催状況

総会、理事会及び各委員会を次のとおり開催した。

区 分		開催回数 (回)
通常総会		1
通常理事会 (うち書面決議 1 回)		2
審議委員会		1
委員会	企画運営委員会	12
	総務委員会	2
	事業委員会	随時
	広報委員会	4
	研究委員会	9

2) 各委員会の活動

(1) 企画運営委員会

協会活動全般に亘る情報交換を積極的に行い、事業計画執行上の総合的な調整を図るとともに、協会全体としての事業活動の効率的かつ円滑な推進に努めた。

また、一般社団法人としての運営の維持・充実を図るため、会員の拡大策などに関する検討を行った。

(2) 総務委員会

総会の適正な管理・運営を図るため、規程・規則などの充実、会員の拡大・拡充についての検討を行った。また、予算案、決算案の作成・検討、総会及び理事会の開催準備などを行った。

(3) 広報委員会

協会内外に協会の活動状況などを伝えるためニュースレターを 4 回発行した。

また、ホームページのレイアウトを更新するとともに協会の機能や活動状況を紹介し、協会活動の広報に努めた。さらに、2024 年版会員名簿の更新・発行を行い、会員、関係機関などに広く配布した。

(4) 事業委員会

特別講演会、野外セミナー、技術士第二次試験受験講習会などの事業を計画・実施し、技術力の向上と人材の育成に努めた。

特別講演会は、令和 6 年 9 月 18 日に環境省自然環境局視線環境計画課長 番匠 克二氏を講師としてお招きし、「自然環境行政の最新動向」についてご講演いただいた。

野外セミナーについては、令和 6 年 11 月 20 日 (水) ～5 日 (火) に「なごや東山の森および名古屋市東山動植物園」の視察を行った。

技術士第二次試験受験講習会については、5 月 23 日 (金) にオンライン形式で実施し、25 名が参加した。

(5) 研究委員会

研究活動の企画、円滑な推進、各研究会の成果のとりまとめ及び成果活用に努めた。

技術セミナーを令和6年12月(2回)、令和7年1月の3回、専門家や環境省職員を招聘しオンラインにより開催した。また、当協会独自の研究活動を積極的に推進するため、会員の中から研究員が参加して行っている以下の自主研究会活動について継続した。

3. 事業活動

1) 調査・研究活動

(1) 自主研究活動

① 自然とのふれあい技術研究会

令和6年度も、「施設整備の基準の研究」及び「施設整備の新事例の収集・整理」について関係者に講師をお願いしてテーマにそった話題提供や技術報告をしてもらい、研究会メンバーの知識及び技術の向上に資する研究活動を行った。

研究会は、オンライン会議も併用して環境省オブザーバーにも出席していただき、合計3回開催した。

② 自然再生技術研究会

令和6年度は、事業開始より20年余が経過した自然再生事業について、それぞれ自然再生の目的や目標、達成状況、課題等に関する事例調査を実施した。令和6年11月には自然再生協議会全国会議に参加し、三方五胡自然再生事業における取組状況を見学した。また、環境省及び全国会議事務局の協力のもと、全国会議に参加された自然再生協議会を対象に各自然再生事業の目標や達成状況、課題等に関するアンケート調査に協力をいただき、その成果の一部をNECTA20周年講演シンポジウムで紹介した。

③ 生物多様性技術研究会

令和6年度は、「パブリックスペースとプライベートスペースをつなぐ生物多様性～庭から始まる生物多様性～」をテーマとした研究で、「ニワ」を地域住民の日常の活動範囲のスケールレベルとし、生物に興味・関心が無い人々や、興味・関心があっても積極的に関わることのない地域の人々に対して、生物多様性の保全や活用が、結果として様々な人々のウェルビーイングの向上に繋がることを認識してもらい、生物多様性の保全・活用の重要性についても理解してもらうことを目的とし、初めのステップとして生物多様性に対して親子が興味を持つコンテンツや手法について議論した。なお、令和6年度は8回の研究会を開催した。

(2) 受託調査活動

環境省から以下の①、②の2件の業務を受託し、会員企業の嘱託研究員が中心となって各業務に対応した。また、自然公園財団から以下の③の業務委託があった。

① 令和6年度自然公園等施設長寿命化計画策定指針改定に係る調査検討業務

多様な施設で構成される自然公園等施設の「個別施設計画」は、健全度調査及び計画見直しの時期を迎えた施設も出始めていることから、自然公園等施設長寿命化計画をより活用できるように改定に係る調査検討を行った。

② 令和7年度自然環境共生技術研究会開催等業務

自然環境行政に携わる環境省職員および関連事業に従事する民間企業の技術者が一堂に会し、各々が有する技術や情報の共有を通して、より実効性の高い自然環境共生技術を探求

する場として、「第8回自然環境共生技術研究会(CoNECT2025)」を開催した。また、開催結果をとりまとめ、次の開催に向けた課題等を整理した。

③ 国立公園等資源整備事業費補助金交付事業に関する資料確認業務

国立公園利用拠点計画策定支援事業、国立公園利用拠点上質化整備事業（建物の解体や建築等に係る内容は除く）及び国立公園核心地利用施設改修事業に関して、補助事業者より提出された資料の妥当性を検証した。

2) 技術の向上と技術者の育成を図るための活動

(1) 特別講演会

- ・ 日 時：令和6年9月18日（会場およびオンラインによる併用方式）
- ・ テーマ：自然環境行政の最新の動向
- ・ 講演者：番匠 克二氏（環境省自然環境局計画課長）

(2) 第8回自然環境共生技術研究会(CoNECT2025)

- ・ 日時：令和7年6月26日（木）13：30～17：30 同27日（金）09：30～16：30
- ・ 場所：TKP 新橋カンファレンスセンター（主会場）、Web 会議によるオンライン形式を併用
- ・ 主催：環境省自然環境局及び一般社団法人自然環境共生技術協会
- ・ 参加者：申し込み総数：約160名
（環境省58名、NECTA 会員79名、NORNAC 団体所属15名）

・ 次第：

(6月26日)

開会挨拶：植田自然環境局長

特定セッション1：野生生物・外来生物の保護管理（発表4件）

特定セッション2：野生生物の調査モニタリング（発表4件）

特別講演：「大阪府北部の里山林におけるチョウ類群集の保全の取り組み」

石井 実 氏 （(地独) 大坂府立環境農林水産総合研究所理事長

(6月27日)

一般セッション1：自然環境調査（発表3件）

一般セッション2：野生生物保護管理の手法（発表3件）

一般セッション3：自然環境保全行動（発表3件）

表彰式：審査員/番匠自然環境計画課長、NECTA 森本会長

(表彰受賞者)

【環境省自然環境局長賞】「環境DNA 調査によるコウライオヤニラミの本州初確認と夜間潜水調査による初期防除」 山下 慎吾（自然環境局生物多様性センター）

【環境省自然環境局奨励賞】「中部山岳国立公園上高地の集団施設地区におけるツキノワグマ管理のための体制構築事例」 栗木 隼太（信越自然環境事務所）

【NECTA 会長賞】「ジオロケーターを利用した希少種チゴモズの渡り経路の推定」 谷口 裕紀（いであ㈱）

【NECTA 奨励賞】「人が近づけなくても生態系をモニタリングする～火山活動が続く西之島における遠隔調査技術開発～」 森 英章（(一財) 自然環境研究センター）

【環境省自然環境局特別賞】「愛媛県における特定外来生物初動対応の連携事例と課

題」 村上 裕（愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター）

- ・ 閉会挨拶：NECTA 森本会長

（3）野外セミナー

○日 時： 令和6年11月20日（水）

○視察場所および解説者：なごや東山の森および名古屋市東山動植物園

房村 拓矢 氏（名古屋市環境局環境企画課）

（4）技術セミナー

【第1回】

- ・ 日 時：令和6年12月4日（水）

- ・ テーマ：自然共生サイト

「企業のネイチャーポジティブ経営に向けた自然共生サイトの活用可能性」

パシフィックコンサルタンツ株式会社 中川考介氏

「生物多様性評価に関わるモニタリング技術と自然共生サイトへの応用について」

サンリット・シードリングス株式会社 代表取締役（CEO） 石川奏太氏

【第2回】

- ・ 日 時：令和6年12月16日（月）

- ・ テーマ：ネイチャーポジティブ経済の動向

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室 室長補佐 大澤隆文氏

- ・ 総合ディスカッション

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室 室長補佐 大澤隆文氏

肥後銀行 理事 岡本光之氏

日本工営株式会社 地球環境事業部 サステナビリティデザイン室 室長 菊池淳子氏

株式会社建設技術研究所 大阪本社環境部 主任技師長 瀬口雄一氏

【第3回】

- ・ 日 時：令和7年1月20日（月）

- ・ 技術テーマ及び講師

「東海自然歩道の活性化の方向性」

環境省 自然環境局 国立公園利用推進室長 佐々木真二郎氏

「みちのく潮風トレイルにおける管理運営の実際と課題」

認定NPO 法人みちのくトレイルクラブ 事務局長・常務理事 相澤久美氏

（5）講習会

令和7年5月23日（金）に協会会議室において、技術士第2次試験（環境部門：自然環境保全・環境保全計画）を受験される方を対象に Zoom によるリモート講習会を開催した。受講者は25名であった。

なお、開催にあたり、カリキュラム等の検討を行い、「環境部門：自然環境保全・環境保全計画講習会テキスト」を編集・改訂し、講習会等で活用した。

【講習会プログラム】

- ① 「最近の環境行政の動向と自然環境保全施策」
講師：笹岡達男氏 東京環境工科専門学校 校長
- ② 「合格ラインに乗るための論文構成の作り方」
講師：松沢孝晋氏 元アジア航測（株）
- ③ 「受験体験談」
講師：日本工営(株) 福岡支店 井上太樹氏

(6) CPDの推進

会員技術者の継続教育を推進するため、造園学会を中心に構成される造園CPD協議会に参加し、講演会、講習会、セミナーをCPD認定プログラムとして申請し、実施した。

3) 情報提供等に関する活動

(1) ニュースレター

会員への情報提供として第81号～第84号を発行した。

(2) パンフレット・会員名簿

協会パンフレットを改訂した。また、2024年版会員名簿を編集作成し、会員及び関係機関などへ配布した。

(3) ホームページ

当協会のホームページの情報更新を随時、実施した。

(4) 報告書・講演録等の発行

【技術士試験講習会テキスト】

・環境部門：自然環境保全・環境保全計画講習会テキスト（令和7年5月）

(5) 自然環境共生に関する情報収集及び発信

研究活動などを通じて自然環境共生技術に関連する情報の収集・集積を図った。

さらに、関連団体主催セミナーなど開催情報、関係省庁からの事務連絡などを会員に発信した。

(6) 環境省との意見交換会（令和7年1月19日、オンライン会議方式）

○内容

15:00～15:05

挨拶 NECTA 専務理事 市原 信男

趣旨説明等 総務委員長 上杉 哲郎

15:05～15:15 令和7年度環境省重点説明

環境省自然環境計画課 笹渕調整官

15:15～17:00 意見交換

※ 令和7年度環境省重点を中心に、テーマ毎（①生物多様性、②国立公園（国民公園）、

③野生生物)に意見交換を実施

※ 冒頭、環境省担当官よりテーマ毎の重点事項（関係予算案含む）を説明

・参加者：NECTA 側約 50 名、環境省側全国から約 30 名

4) 20 周年記念シンポジウム

テーマ「ネイチャーポジティブに向けて自然環境共生技術が果たす役割」

～生物多様性の維持・回復・創出を支える自然環境共生技術～

令和 7 年 5 月 27 日 航空会館（東京都港区新橋 1-18-1）

参加者 会場参加者 68 名 YouTube 配信申込者 223 名

内容

○自然環境共生技術の 20 年（取組事例報告）

- ・自然共生技術（CoNECT） 上杉 哲郎 NECTA 理事・企画運営委員長（日比谷アメニス）
- ・生物多様性技術 柏原 聡 NECTA 研究委員会副委員長（いであ）
- ・自然再生技術 澤樹 征司 NECTA 研究委員（建設技術研究所）
- ・自然とのふれあい技術 神宮 孝 NECTA 自然とのふれあい技術研究会幹事（トポラボ）

○特別講演

- ・勢一 智子（西南学院大学教授）「ネイチャーポジティブ実現のための展望と課題」
- ・三橋 弘宗（兵庫県立 人と自然の博物館主任研究員）
「ネイチャーポジティブ実現のための自然環境共生技術のこれから」

○パネルディスカッション「自然共生サイトのこれから」

- ・コーディネーター：森本 幸裕（NECTA 会長）
- ・パネリスト：

田村 努（(独)環境再生保全機構 自然共生部長）

勢一 智子（西南学院大学教授）

三橋 弘宗（兵庫県立 人と自然の博物館主任研究員）

上杉 哲郎（NECTA 理事・企画運営委員長）

小菅 敏裕（NECTA 研究委員会副委員長（パシフィックコンサルタンツ））

○配付物

- ・研究等活動実績経歴書【NECTA 法人化 20 周年記念版】令和 7 年 5 月